

令和6年度 第1回「おおだ未来☆夢ランド」の提言から

令和6年6月27日（木）

【テーマ】

「おおだ教育フェスタ・おおだ教育月間のあり方について」

～知る・考える・つながる～ をどう発信するか

大田市では令和3年度に毎年2月を「おおだ教育月間」と定めた。また、令和元年度より2月第二土曜日に「おおだ教育の日フェスタ」を実施している。これらを通して大田市における特色ある教育活動を情報発信することで、市民に広く内容を知り関心をもってもらい、子どもたちの学びを学校、家庭および地域で関わる環境を整え、支援の充実を図っている。

おおだ教育の日フェスタは新型コロナウイルス感染症が拡大していた令和2年度は中止し配信のみとした。令和3年度はコロナ感染対策をしながら時期を変えての実施であった。その後、令和4年度から大田市の取り組み・各教育機関の活動報告・講演会・展示等実施しているが、教育関係者の参加がほとんどで、一般の参加者が少なく、ねらいを十分に達成できていない。おおだ教育フェスタ・おおだ教育月間が効果的でより充実した活動になるよう、多面的な視点をもって活動について推進委員から意見や提言をいただき、今後の実施計画に反映させたい。

【意見・提言】

ねらい 対象 分析など

- 参加人数、目標設定をする。
- 来場しなかった理由の分析を行う。
 - ・何に興味をもって来場したのか、あるいは、なぜ来場しなかったのか。
- ターゲットを絞っているのか。
 - ・子どもがターゲットなら保護者も来る。高齢者をターゲットにすれば人数は集められる。
- 優等生、クラスで選ばれた人たちだけが出るのではなく、出られない子たちが取り残されないような内容の配慮する。

内容について

- 体験コーナーの設置する。
 - ・日本遺産かるた・観光振興課の缶バッジなど。
- 子ども自身の発表を行う。
 - ・子どもの思いを聞く、子ども同士が関わる内容。
- 地域の子どもが他地域の子どもに教えるなどの内容を取り入れる。
(田植え囃子など)
- 邇摩高校が考案したメニューなどのブースを設置する。
- 地域食堂・子ども食堂を知る機会と位置付ける。
- 事前に絵や写真の募集する（当日含む）。
イベントには行けなくても自分の作品が展示される。

運営について

- 国立三瓶青少年交流の家・伝承館への誘導の工夫する。
 - ・さんべ祭は楽しいイベントがめじろ押しで、なかなか伝承館に来てもらうのが難しい。
- ブースでのイベントの配列を工夫する。
 - ・例えば食を14時までやるとか。何もイベントをやっていない時間を作り、その時間を利用して伝承館に来てもらえるよう仕掛ける。
- 「おおだの教育をみんなで考える1日にする」市民参加型をすすめる。
(実行委員会を設置)
- 職業体験など 事前募集で集客のしかけをつくる。
- 子どもの服の交換会などから話を聞く時間などを設定する。
- ぎんざんテレビでのPRを行う。